

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 62 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2024 年 11 月 5 日 (火) 15 時 00 分～16 時 40 分
2. 場所： 対面：原環センター第 1 会議室、WEB 会議 (Webex を使用) 併用
3. 出席者 (順不同、敬称略) 対面参加者は座席表参照
(出席委員) 柳原主査、石川副主査、田村幹事、上田、梅原、椋木 (柏木代理)、工藤、小松原、坂下、大杉 (佐々木代理)、鈴木、岸下 (高崎代理)、新崎、福元、丸、山本、横田、脇 (18 名)
(欠席委員) なし
(常時参加者) 出雲、松本、満田、古田、上市、森本、山本、宮田、中浜、柏木、内田、山崎、東出 (13 名)
(欠席常時参加者) 小野、土田、前田、山田、美濃 (5 名)
(オブザーバー) 野村
4. 【配付資料】
F9Ph2SC62-0 第 62 回 LLW 廃棄体製作・管理分科会議事次第
F9Ph2SC62-1 第 61 回 LLW 廃棄体製作・管理分科会議事録案
F9Ph2SC62-2 専門部会・分科会人事シート (LLW 廃棄体等製作・管理分科会)
F9Ph2SC61-3-1 大型角型容器形態編標準案の検討方針
F9Ph2SC61-3-2 (別紙) 技術評価対応への振り返り (最終版)
F9Ph2SC61-4 倫理教育について

5. 議事

(1) 出席者の確認

田村幹事から、18 名全員が出席しており、分科会成立に必要な委員数 (12 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 人事について

田村幹事から、F9Ph2SC62-2 のとおり報告があり、以下の委員選任が承認された。

- ・椋木 敦 (日揮株式会社)
- ・岸下 清一 (日本原子力発電株式会社)
- ・大杉 武史 (日本原子力研究開発機構)

また、柳原主査より主査退任の申し出があり、福元委員が主査に選任された。

その他、委員 3 名の退任、常時参加者 1 名の退任、常時参加者 5 名の登録承認を確認した。

(3) 前回議事録案の確認

田村幹事から、F9Ph2SC62-1 に基づき、前回議事録案について説明があった。本分科会において追加コメントは無く、承認された。

(4) 大型角型容器形態編標準案の検討方針

委員から、F9Ph2SC62-3-1、2に基づき、今後の検討方針案について説明があった。

L1放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価結果を踏まえた今後の対応案に基づき、当該標準の検討に際して留意すべき事項について議論した。

その結果、「標準本文に関する解釈及び技術根拠」、「廃棄体製作手順の詳細」に係る附属書を新規に策定することによって、規定事項の明確化と具体的な解釈を整理するとともに、廃棄体製作手順の詳細化と規定要求を満たすことを示す技術的根拠を分かりやすく示すことになった。

また、分科会委員の意見集約を書面にて行うこと、論点を絞った上で分科会の下に作業会を設置して集中的に議論することが承認された。作業会の委員、常時参加者については別途調整し、今回の分科会で承認の上、正式に作業会を立ち上げることにした。

主な質疑は以下のとおり。

(Q) 分科会での意見集約はどの程度の期間を考えているのか。

(A) 1～2週間を考えている。

(Q) 作業会での審議と分科会での意見集約はどのような関係になるのか。

(A) 作業会にて標準案を作成し、これを分科会で審議する。この分科会で集約した意見やコメントを作業会に持ち込んで標準への反映方法を議論する。その後、これを繰り返して最終的な標準案を作り上げる。

(C) 分科会や作業会の回数を相当増やさないと期限内に制定するのは難しいかもしれない。

(C) 水化学管理分科会も作業会を設置して審議したが、毎月、作業会と分科会をやっていた。機動性をもってやる必要がある。

(Q) L1放射能標準の技術評価でのやり取りを見てみると、学会標準は良好事例を標準化したもので、どの方法を選択するかは使う側が決めるというスタンスであるが、個別審査を前提としている規制庁側はそれでは不十分であると言っている。標準の位置づけをどうするかが検討の前提条件になる。

(A) 規定の解釈と技術根拠、廃棄体製作手順の詳細化により位置づけの議論は一致点を見つけられると考えている。このような議論を規制庁も入った作業会にて行いたい。ただし、当該標準に記載する内容について選択肢は多くないので、L1放射能標準の技術評価時のような問題はないと思われる。

(C) 作業会設置については、学会の細則に示されているようにメンバー選定後分科会にて承認が必要なので忘れないようにしてほしい。作業会メンバー選定後、互選により主査を決めることになっている。

(Q) 2010年度から開始したドラム缶標準の議論から今日までで新しい技術的知見はあるのか。

(A) 当時、ドラム缶標準を優先して検討を開始したが、大型角型容器のニーズが発生しそのための試験研究、例えば容器の落下試験等を事業者にて実施してきた。今回はこのような技術的知見を反映するとともに、L1放射能評価標準の技術評価結果の振り返りで抽出された課題への取り組みも行う。

(C) 規制庁の作業会メンバーについては、庁内で承認が必要。現在、規制庁とATENAにて調

整中である。今回示されたスケジュールどおりとなるかは不透明。意見表明について、メールでの表明はできないので書面での対応は難しい。

(C) 規制側は相当高い要求をしてくるが、事業者側はある程度の合理性がないと事業運営はできない。このあたりの落としどころの議論が可能になってほしい。また、新技術の反映は学会の場で議論するのが適切ではないかと思う。

(C) 学会での議論に際して、規制基準への適合性までの判断はできない。規制基準への適合性判断は具体の審査段階における公開の審査会合にて行うことになっている。

(Q) 旧 JNES があつた時は、JNES 参加者の発言はあつたのか。

(A) 分科会においても必要なコメントやご意見はいただいていた。

(Q) 分科会や作業会で規制庁から足りない部分について言及してもらえるのか。

(A) 電気協会側の規格策定委員会にも規制庁が出席しているので、実態を確認したい。

(5) 倫理教育について

幹事から、F9Ph2SC62-4に基づき、倫理教育受講の依頼があつた。11月12日(火)までに受講いただき、感想等について幹事まで報告いただく。

6. 次回の予定

別途、調整する。

以上

座席表

古田（規制庁）		第62回LLW廃棄体等製作・管理分科会 2024年11月5日（火）15:00-16:40 原環センター第1会議室			新崎（RWMC）
椋木（日揮）					小松原（東芝ESS）
梅原（JANSI）					脇（関西電力）
横田（富士電機）					上田（日立GE）
	田村幹事（RWMC）	石川副主査（JAEA）	柳原旧主査（福井大）	福元新主査（福井大）	